

## 府中市総合教育会議 会議録

- 1 開会の日時  
令和元年12月20日（金） 教育センター 会議室  
（令和元年度第1回） 13時30分 開会
- 2 出席委員  
小野市長、平谷教育長、高橋委員、和知委員、松尾委員、藤井委員  
（6人）
- 3 委員以外の出席者  
村上副市長 栗根総務部長  
荻野教育部長 大和教育政策課長 門田学校教育課長  
山田女性こども課長 豊田政策企画課長  
宮原政策企画課主査 木村政策企画課主任主事
- 4 協議事項  
（1）府中市教育大綱の一部修正について  
（2）令和元年度の取組について
- 5 傍聴者 0名 （報道機関3社）

15時05分 終了

<p>総務部長</p>	<p>開会に先立ちまして、会議の公開についてお諮りさせていただきます。</p> <p>法律の規定により原則公開ということになってございますが、公開することとしてよろしいでしょうか。また報道機関から本会議の撮影の許可の申し出がありますので、こちらの方も併せて許可とさせていただくこととしてよろしいでしょうか。</p> <p>「はい」の声</p> <p>それでは会議は公開とさせていただき、報道機関による撮影についても許可させていただきます。</p> <p>ただいまから、令和元年度の第1回府中市総合教育会議を開催いたします。開会にあたり、小野市長からご挨拶を申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>みなさん、こんにちは。</p> <p>教育委員の皆様にはお忙しい中、お集まりいただきまして、大変ありがとうございます。また日頃は、府中市教育行政に何かとご尽力賜りまして重ねてお礼を申し上げる次第であります。</p> <p>今年もあとわずかとなってきましたが、何かとお世話になりました。特に8月に開催されたコミュニティ・スクール全国大会の際には、皆様それぞれ大変ご活躍をいただきまして、改めてこの場を借りてお礼申し上げます。</p> <p>昨年この会議で教育大綱を策定し、その中には「『可能性』と『チャンス』を生かす教育のまち」ということを盛り込んだわけでございます。今日あれから1年経った中でその進行状況、あるいは今の教育環境などの様々な状況について、教育委員会から説明をいただいたのち、皆様のご意見を賜ればと思っておりますので、きたんのないご意見をよろしく願います。</p>
<p>総務部長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、これよりの議事進行は小野市長が行います。市長よろしく申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>はい、よろしく願います。</p> <p>次第に沿って進めさせていただきます。協議事項の(1)府中市教育大綱の一部修正についてといたしておりますが、内容</p>

	<p>についての修正ではなく、文言の修正についてでございます。事務局の方から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>お配りしている教育大綱をご覧ください。</p> <p>中面のⅡ大綱の期間の部分が「平成35年3月まで」となっております。これを新元号「令和5年3月まで」に改めさせていただきますと考えております。</p> <p>続けてⅢ大綱の基本方針と取組の1 これの2行目終わりに「保幼小連携」となっております。これを国の表現とあわせる形で「幼保小連携」とし、今後の会議等では「幼保小連携」で統一したいと考えております。以上です。</p>
市長	<p>こちらの修正について、よろしければ事務局の方で対応させたいと考えますが、皆様いかがでしょうか。</p> <p>「はい」の声</p> <p>ありがとうございます。それでは事務局で対応をお願いします。</p> <p>続いて次第の(2)の令和元年度の取組につきまして説明をお願いしたいと思いますが、まずは平谷教育長から教育行政の概要についてお話しいただきたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
教育長	<p>はじめに私の方からは、府中市教育、特に今回は学校教育の状況や今後の方向性に絞って、概要をお話させていただこうと思います。詳細につきましては後程、部長や課長の方からご説明させていただこうと思います。</p> <p>学校教育の施策の大きな2本柱の1つ小中一貫教育についてですが、より充実した学びの環境を子供たちに届けたいということで、義務教育学校そして併設型小中学校へ移行して、現在3年目の取組を行っているところです。各学園とも特色ある取組を進めておりまして、特に義務教育学校では4・3・2制、4・5制といったステージ制を導入して、子供の発達段階に応じた教科担任制、行事の工夫などにより自己肯定感・学力の向上に取り組んでいるところです。また一方、併設型小中学校でも、それぞれの学校の特色を出しつつも、学園で連携協働した取組を進めておりまして、以前にも増して教職員の一体感も見られる状況になってきております。</p>

そういった中で、ここ数年の全国学力テストの結果ですが、年度あるいは教科による違いは若干あるものの、市内の平均は小学校では概ね全国平均を数ポイント上回っておりますが、中学校では全国平均と同程度といった状況でありまして、まだまだ伸ばしきれていない、小中一貫の良さがまだ十分に表れていないと感じているところもございます。

また不登校児童生徒数の状況につきましては、平成25年度から見ておりまして、概ね20名から30名前後で推移している状況でしたが、最近の傾向として、小学生の登校渋りなどの不登校が若干増えている状況があり、全体的には増加傾向を示しております。小学校入学時期の対応あるいはその後の家庭との連携が重要なポイントとなっております。

小中一貫教育を進めてきて、もう十数年経ちますが、義務教育卒業時、進路未決定者については、ここ数年ゼロで推移しており、一定の成果は見て取ることができますが、先ほどの学力面あるいは不登校の現状を見たとき、小学校入学以降、低中学年までの時期に、落ち着いてそして集中して学びに取り組めるように、基本的な生活習慣、学びに向かおうとする力、基礎的な学力、こういったものをしっかりと身につけることが必要で、現在進めている幼保小連携や、その中での保護者との連携、学びの充実を更に進めていく必要があると考えています。

そして学校教育のもう一つの柱であるコミュニティ・スクール（以下：CS）につきましては、本年度の4月に全校設置ができました。各学校の取組の濃淡はありますけれども、学校運営協議会が機能して子供たちの学びが充実したり、あるいは地域の活性化にもつながったり、成果も見えてきていると考えております。

先ほど市長からもありました8月には、府中市初の全国大会を開催させていただき、全国に府中市の取組等を発信することができ、関係者に更なる勢いをもたらすこともできていると考えております。

その後、8月以降も全国市町村教育委員会の研修会や県内の研修会等で発表したり、文部科学省の研修会や沖縄県の校長研修会には講師として招かれたり、このCSの取組に関わって

は、本年度文部科学大臣表彰とか、これは先日発表になりましたが、広島県の教育奨励賞に合わせて3団体と1名が受賞、あるいは受賞予定となっております。それだけ府中市の取組が県や国からも認められてきたと考えております。CSは学校づくり・地域づくりということで進めておりまして、引き続き地域への発信、連携の取組が重要であると考えております。

一方で、2、3年前から沖縄県名護市の緑風学園という学校と、学校のある大浦地区と府中明郷学園との交流が行われておりまして、今後我が学校内だけでなく夏に実施したエクスカッションのような取組によって、学校と学校の交流、地域と地域の交流に広がり、それがひいては産業、文化、観光にも展開の可能性が見いだせるのではないかと考えております。

そういったことから考えると、小中一貫教育もCSも現在の取組をより確かなものにしつつ、先を見据えながらの取組も必要だと考えております。

今後の学校教育の充実には、今言われております教職員の働き方改革による子供と向き合う時間、教職員の研究、研修時間の確保、家庭との連携の在り方、不登校児童生徒に対する取組のあり方、更にはICT教育、英語教育の推進に向けて、人的あるいは物的な面も含めて教育環境整備が重要になってくると思います。この夏には空調設備が全校に整いまして、まだ暑い2学期はじめでしたけれども、快適な中で集中して学習できたとか、教職員の疲労も軽減されたと大変好評でございました。来年度以降この空調設備を有効に活用した取組も現在検討しております。

教育による人づくりは、10年20年後を考えると非常に重要なことだと多くの皆様が言われますが、教育の成果はすぐには出ないということもあり、なかなか重要視してもらえない分野でもありまして、現在進めている取組をしっかりと発信して、市民の方にもご理解をいただかなければならないと感じております。教育はどちらかといえば、少ない予算で最大の効果が求められているということもある中で、この度の空調設備設置など、必要なことには予算もしっかりとかけて、将来を見据えながら軽重つけた取組が重要であろうと考えます。重点を明

	<p>確にしながら、大綱にもうたわれている「全国トップランナー」という気概をもって、引き続き挑戦していきたいと考えております。</p>
市長	<p>ありがとうございました。今いろいろと説明いただいたわけですが、具体的に事務局から説明をいただきたいと思えます。</p> <p>まずは教育長のお話しにもありましたが、教育大綱の1番(1)で「確かな学力・豊かな心」を掲げていますが、そのあたりの説明をお願いします。</p>
門田課長	<p>学校教育課の方から説明させていただきます。</p> <p>まず、大綱にもうたわれております「可能性」に挑戦し「チャンス」を生かす、そういった児童生徒を育成していけているだろうかといった視点から報告させていただきます。</p> <p>まずは全国学力調査の結果から、小学校は平均をかなり上回っており、県内でもトップ10に入るレベルにきております。ですが中学校の方が、全国平均とほぼ同じあるいは下回っているところで、どのような問題に対して子供たちがためらっていたのかということの説明いたします。</p> <p>中学校の国語の問題で、特徴的な設問が見られます。「あなたが読んで感じたことや考えたことを、資料を参考にしながら次の条件にしたがって書きなさい」また「あなたならどのような考えを述べますか、次の条件にしたがって、実際に話すように書きなさい」。こういう設問が連続していきます。つまり「あなた」が求められる、そして最低でも2つ程度の条件にうまく適合させて自分の考えを表現する力が試されているという設問でした。正解を記憶してさえいれば回答できるという調査ではないということで、授業改善がかなり求められている状況です。つまり、テキストの内容を踏まえて自分の考えを指定された条件に合わせて再構成していくといった力が必要とされているということです。9年間の学びの中で小中一貫教育を通して、そういうことを表現できる力をつけさせたいと取り組んできたところではありますが、結果からみるに、まだ指導が子供たちに十分届けられていないという現状をみるものです。まさに国が示している主体的・対話的な深い学び、これを作り出すためには更なる授業改善が必要と考えております。</p>

続いて、生徒指導上の課題に関して、暴力行為は11月末で市内で5件、昨年度は3月末で21件ありましたので、現在の状況では激減しております。いじめは11月末現在で12件、昨年度は全て合わせますと18件でしたので、これも今の推移からするとほぼ同じような状況かなと思われます。不登校は11月末の段階で37人、昨年度3月末で36人でしたので、今の段階で昨年を上回る数字となっております。

不登校に関しては国もさまざまな施策を打ち出しております、それを問題行動として捉えることではないという説明もあり、「居場所を作っていく」、また「学校復帰のみにこだわることをないように」とも言われております。

府中市の場合、分析を加えていきますと、「〇〇のせいで不登校になった」というように「不登校の原因はこれだ」と特定できるケースはなかなかございません。実際に当該児童生徒と面談してみても、「不登校の原因は自分でもよくわからない」という言葉もございます。文部科学省の方は、実態について更にきめ細かく調査することが必要として、5つの要因をあげて全国調査しております。近年多く言われている「不安」「無気力」、そして「人間関係」「遊び・非行」「その他」の5つの分類で子供たちの不登校の要因を探ろうとしております。しかし、国もこの5分類のみで説明するのではなく、更にその背景となる因子として「学校に係る状況」、「家庭に係る状況」などの10項目とクロス集計する形で子供たちの要因を探ろうとしております。わたしたちも数字の向こうには必ず一人の子供が現実に悩んで苦しんでいる、そういった息遣いに最大限寄り添って取り扱うと考えているところです。今のような慎重な姿勢をもって府中市の不登校の状況を整理しますと、府中市の場合、「不安」を主要因としてあげているケースが4割あります。しかしこれのみで「不登校の子は不安が多い」とは言えません。それから「人間関係」に課題を抱えて登校できないケース、これが3割弱。次が「無気力」2割程度、なお府中市の場合、「遊び・非行」はゼロです。不安傾向の内でもいじめを除く友人関係をめぐる問題とか、学業不振といった課題が多い傾向にあります。このような傾向を踏まえ、本人あるいは保護者へのカウ

	<p>ンセリングや生徒指導、教職員への助言をする体制を作るためにスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの配置等、専門家を入れて組織的に取り組んでいるところです。</p> <p>特に今年度セーフティネットの機能として導入したスクールソーシャルワーカーの専門性には、特に期待しております。また、教育委員会が設置している適応指導教室には、相談員1名と複数の指導員を配置して、不登校の児童生徒が来たときには、自立のための学習などができる体制を毎日確保しています。</p> <p>これらの対策等に取り組む中で、昨年度不登校の児童生徒のうち19.4%が登校を再開しています。また、不登校が継続しているものの、なんらかの好転状況に至った児童生徒もあり、合わせると約6割の生徒には変化が生まれております。進路希望についても、適応指導教室に通っている子供たちの高校進学が叶ったという、学習の居場所づくりを通して、セーフティネットに取り組めております。</p> <p>もう一つ、今年取り組んでいるセーフティネットの中のスクールガード支援員の配置ですが、日常的な活動としては、生徒指導上の課題を抱える児童生徒への対応として、現在府中学園に配置し、第一中学校に要請があつて派遣といった形で、拠点校以外の学校にも活動を進めております。問題行動に係る特別な指導の場面では、学校の職員の対応とは違った角度から、元警察官という職歴の視点から働きかけていただく、あるいは保護者への対応の面でも、学校の教職員ではなかなか踏み込めないところも話していただける、このことが暴力行為の減少にもつながっているものと考えております。</p> <p>確かな学力を生み出すために、可能性とチャンスを生かせる状況になりえているかとなると、十分な授業改善に至っていないという課題がありますが、組織的に機能し、設置した専門家など浸透しつつあると考えております。</p>
市長	<p>学力や問題行動、いじめなどについて説明をいただきまして、皆様の方からご質問、ご意見などお伺いしたいと思います。藤井委員、いかがでしょうか。</p>
藤井委員	<p>不登校が増えているのは、肌で感じるところがあります。学</p>



	<p>校も一生懸命、改善傾向になるように、少しでも学校に来られるようにという取組を、学校でもそれぞれの状況に応じてしておりますが、なかなか人員とか、対応する場所とか、教室ではない別の場所が必要なので、それぞれ学校で空き教室を使うなど対応はしているのですが、そのあたりが柔軟にできたら、予算はかかるのですが、校内にも対応できる人がいたりすると、もう少し前進するのかなと思います。</p> <p>養護教諭が対応したりするのですが、インフルエンザの時期や、ケガ発生するときなど本来の業務がありますので、そちらにつかざるを得ない、そこにつける人がいないということが学校の悩みではないかと思います。</p> <p>部屋の確保にしても、教室に入られないということは、友達にも会いたくない、呼びに来てくれるのはうれしいけど重荷だと思うなど、部屋を整備して対応してあげられるとよいのですが、予算もかかりますし、そのあたりが難しいとは思いますが考えていただければ、学校としてはありがたいのではないかと思います。</p>
市長	<p>教室で全員入って同じように勉強する、それができない子供を不登校とする一律の考え方ではなく、例えば保健室だったり、適応指導教室だったり、違った場所なら学ぶことができる子供にどうやって手を差し伸べていくか、という取組が必要ではないかという話を聞いたことがあります。</p> <p>そういう意味では不登校イコール「それではダメ」ということではなく、どうしたらその子供にあったやり方ができるのかと考えれば、一概にみんなと教室と一緒に、集団でしないといけないと押し付けない部分も大切だと聞きました。そこは養護教諭や適応指導教室の先生の力を借りるとか、とはいえ限られた人数でやっておられるので、学校でも工夫しておられるのではないかと思います。そのあたりは教育委員会として、手立てというか、何かありませんか。</p>
門田課長	<p>国は教育支援センターという考えを打ち出しておりまして、府中市ではそれが適応指導教室のことを指します。けれども、もっと悩んでいる子供のそばにということになると、ここに集まってよいよとだけではなくて、適応指導教室の機能が分室的</p>

	<p>に、例えば学園規模のエリアごとにその機能を持つ場所があれば、「そこまでなら来れる」という居場所を確保する適応指導教室の分室機能を作っていくとか、あるいはICT教育の1つの手法として、タブレットや学習アプリなどで、学校で学んでいることがデータとして届いて、自分でそこで勉強できるという、自分が進路から外れていないと感じさせるような場所の機能と、学習内容としての機能はこれから工夫の余地があるのではないかと考えております。特に上下学園の方で不登校になると、適応指導教室のある教育センターまでの移動が難しい場合、そばにあるということが「救える」ということに届くと考えます。</p>
<p>市長</p>	<p>他にご意見がありますか。もしあれば後程お伺いします。</p> <p>続いて、府中市の子供たちを0歳から二十歳まで責任をもって育てていこうという取組をしているわけですが、先日も「子育てステーション」府中版ネウボラを開設し、妊娠期から出産・子育て、学校に至るまでを全体で見守っていこうとしているわけですが、そのあたりについてまた事務局の方から説明をお願いします。</p>
<p>門田課長</p>	<p>幼保小連携について説明いたします。</p> <p>わたしたちが考えている幼保小連携のポイントは2点あります。1つは幼稚園・保育所と小学校の間のカリキュラムを接続すること、もう1つはセーフティネットによる接続、これが幼保小連携の要になります。</p> <p>府中市の幼保小連携の特徴は、文字通り幼稚園と保育所と小学校がお互いに顔を突き合わせる、互いの職場を訪問する、そして実際に子供の姿をみて連携しているということが強みになっています。更にそこに中学校や高校にも連携の輪を広げておりますので、保育所等の所長さんたちが高校の授業を見ることがも行っております。こういう合同研修を開催していることも、今日の前で接している乳幼児がやがて十八歳、あるいは二十歳になるということを双方が見合う、成長のスパンを意識できるのも本市の取組の特徴と考えております。</p> <p>先進地視察を何か所かしてきた中で、多くは幼小の連携を中心に進めるとか、保小の連携を中心に進めるとか、結節点を固</p>

	<p>めて、そこで接続となっていることを、どの市町も課題視されているとのことでした。しかし府中市の場合、スタートは義務教育段階の全ての子供を対象とする小中一貫教育から広げていこうとしているので、全ての幼稚園・保育所に通っている乳幼児が小学校に上がってくるといった認識ですので、同時展開ができております。そのことが3者ともに「この取組はやりがいがある」というふうに、教師、保育士も実感として共有されております。</p> <p>したがって、府中市で今学んでいる全ての乳幼児が府中市で成長していくカリキュラム上の期待感を作ろうとしておりますし、セーフティネットとしても安心が届けられることが府中市の幼保小連携の特徴、ここに大きな意味があると捉えております。</p> <p>実際に内容面では、小学校入門期のスタートカリキュラムは既に実践をしております。幼稚園・保育所においてはアプローチカリキュラムも完成段階にあると聞いております。来年度の4月早々に、入学したての1年生の公開授業をやりたい、スタートカリキュラムを使った学び、保育所で経験した遊びを、教師が知っていて、授業でその体験を生かせるような公開授業を外に向かって発信できる段階になっております。この進捗状況は県教育委員会から見ても、予想を上回るスピードで府中市の連携は進んでいると言われております。</p>
市長	<p>幼保小、府中市で言えば更に中学・高校へもつながるわけですが、そのあたりを含めて委員さんからご質問等がございますでしょうか。</p>
高橋委員	<p>非常に内容としてはよいことだと思うのですが、先生方の負担が増えることはないのでしょうか。</p>
教育長	<p>物理的な連携をするという負担は増えるかもしれませんが、実際に子供の姿をみて、例えば小学校へ来た時にそれを有効に生かした指導ができるわけで、負担とは捉えないというか、むしろ有効的なことだと思います。実際に「負担だ」という声は聞いておりません。</p>
教育部長	<p>将来どういう指導をしていけばよいかという、目に見えないものが先に見られるということは、状況がわかるので、むしろ</p>

	<p>ありがたいという声の方が多いと聞いております。</p>
高橋委員	<p>オープンスクール程度の規模でやられるのだったらよいと思うのですが、1年を通して何回くらい会合を持たれているのですか。</p>
門田課長	<p>研修自体は3回です。その間に自分たちがやってきたカリキュラムを整理していくことが、小学校の取組を知って整理することは意味があって効果的で、いろいろな取組の中で、これが一番喜ばれているようです。</p> <p>保育所に集まって、知らないことを見たりとか、保育所側からすると、「今までなかなか連携が取れなかったけれど、こういう研修はしてほしい」という声もいただきます。意味を見いだせると負担感はあまり出ないと思ったところです。</p>
市長	<p>研修を通して改めて気づくということは随分あって、気づくことによって改善したり、取組を進めていただければと思います。他に何かありますか。</p>
藤井委員	<p>教師同士だとなかなか、小学校の先生が、保育所幼稚園の先生がどんな指導をされているのか、子供がどんな様子なのかあまり見る機会がないと、今までの経験から思うので、実際に保育所で研修されるのはとてもよいことだと思います。</p>
門田課長	<p>実際にこういうケースがありました。小学校の教師は、入学してきたとき、まったくの更地に対して指導する気持ちなのですが、幼稚園や保育所の先生は、ここまでリーダー性を育ててきたことを生かしてもらえてないという若干の不満を持っていたけれども、今回の連携で気づくことがいっぱいあって、小学校で生かせたらすごくよいですね。この連携はとても効果がある、一番望んでいたところに手が届いたという状況です。</p>
市長	<p>年長で保育所のリーダーとしてやっていたのに、小学校1年生になった途端、お客様というか子供扱いされて、保育所でもきちっとできるようになっていたのに、という話は聞いたことがあります。</p> <p>3番目の話題といたしまして、CSが府中市は全校に広まっておりますし、全国大会も開いたのですけれども、今後どういう方向で進めていくべきなのか、今後の展開を含めて、教育委員会から少し具体的に説明をお願いします。</p>

門田課長	<p>今後のCSの方向性についてですが、全国大会をやってみて課題もいただいております。課題というのは、学校運営協議会が、学校の教育課程が充実する方向に組織が機能していくという所をもっと鮮明にしていこうと、そういう教育内容を作ることが、課題を解決していくということをやっていきます。それによって全国の中でも先進性を府中市がとり続けられると考えております。更に府中市のCSに関心を寄せていただく勢いが今あります。府中市のCSを改善していくためにも、今年開催したエクスカージョンを来年も新しいスタイルで続けたいと考えております。ただ全国大会は別の都市でありますので、そのうえで府中市に来るとなると、府中市があれからどう変わったかということ発信できるような内容を作りたいと考えております。ここに府中市の強みとしての地元企業がCSに協力できないかと、特に青年層の企業家たちが、自分たちがやろうとしているまちづくりと教育への投資を合致させたいと申し出てくださり、府中青年会議所とも一緒に研修会を行ったところです。このことによって教室で学ぶ内容と、実社会で待っている学びをクロスさせたCSになると、地域社会の基盤はできあがっていますので、未来社会に向かって挑戦している地元企業家がCSの中に教育課程として入ってきてもらうと機能すると考えております。</p> <p>小中一貫教育によって9年間の学びの系統性をたてる、CSによって地域との連携の基盤を作る、ICT教育を入れることによって、未来の学びを持ち込むという3つの円環が整う、そういうCS機能をエクスカージョンの中で発信していきたいと考えております。府中市にとっての地域は単に地元だけでなく企業や事業所も含む未来を見据えた地域という概念で、CSを設置してきました。</p>
市長	<p>全国大会では皆様にもご活躍いただきまして、8月の「熱い」夏を思い出して、ご感想やご意見など何かございますでしょうか。</p>
和知委員	<p>山口の錦帯橋では小学校低学年で歴史を知る授業があって、上級生になると子供たち自身が観光客にガイドする、そして取組を継続して、今度は上級生から下級生へ指導するという流れ</p>

	<p>を作っているとCSに来られている先生からお聞きしました。</p> <p>上級生から下級生に教える、また授業外でも普段から観光客に子供が自主的に話しかけて説明をする、それができたら、来られた人はすごいと感動する。ステップアップするとしたら、そういう流れを作るというのも1つの方法ではないかと思えます。</p>
市長	<p>上下ではそういう活動ができつつあると思うのですが、教育委員会から何かありますか。</p>
門田課長	<p>その取組を通して今学んでいる子たちの資質能力が向上していく、そして広い視野の中から府中市を見られる子供になってほしいという願いがあります。そういうCSを地域の方や地元企業家の方にも協力いただければ可能になると考えております。</p>
松尾委員	<p>質問ですが、青年会議所との話はどこまで具体的なものとなっているのでしょうか。一緒にやりましょうというところですか。</p>
門田課長	<p>具体的には、教育政策課の所管する「志の教育」で、実際に青年会議所が学校での学びに加えて自分たちの持つ教育資源を届けて、ブラッシュアップしていこうという動きも生まれております。CSの中に委員として入ることも話題になっております。</p> <p>一緒に研修して、どういうことを教育委員会が目指しているのかを知って、地元の企業家として子供たちにあたることができる。これはキャリアスタートウィークの時もそうですが、今あるものをもっと厚みをもって取り組んでいきたいと思います。</p>
松尾委員	<p>やはり委員に入ってもらうのが一番直接的なので、よいことだと思います。</p>
高橋委員	<p>夏の全国大会は府中市のCSを全国にアピールするととても良い機会だったと思います。</p> <p>今、上下中学校ではインバウンドに対してボランティア英語ガイドをしておられ、旧府中市の方でもCSを活用して、学校単位でもよいので、地域の素材の掘り起こしとボランティアガイド的なことへの発展性など芽生えてくれれば、地域としてC</p>

	<p>Sの広がりが見えてくるのではないかと考えます。世代を超えたつながりができていますので、CSがどんどん発展していくと思います。</p>
市長	<p>地域には教材になるものも随分ありますし、地域の歴史を学ぶだけでなく、地域の資源を使って、低学年から高学年が一緒に連携を取りながら人間関係も築いていける、そういう題材になると思います。地元の歴史も含めながら、地元をしっかりと語れるようになってもらいたいと思います。</p> <p>最後に藤井委員はいかがでしょうか。</p>
藤井委員	<p>全国大会が府中市でできるということを嬉しく思いました。やはり変革し続けていかなければならないと、それが使命だと感じます。エクスカージョンを来年度以降も続けていく構想ということで、外からの刺激を受けるということは、変革にはとても大事だと思います。実現するには大変な労力だと思いますが、よいことだと思います。</p> <p>府中明郷学園がやっている地域協創カリキュラム、9年間あるからこそできる小中一貫教育とCSとの、縦と横の必要性を感じます。併設型小中一貫校でも、何か芯が一本通っているようなカリキュラムが作られたらと現職の時から思っていました。4つの学園があるので、その学園の特色を出していくことが必要だと思います。</p> <p>地元企業とのコラボは府中市にとっては大事なことだと思います。先日テレビで地元企業のスニーカーが紹介されており、市民としてとても嬉しく思いました。これから進路を決定していく途上にある子供たちが、府中市のものづくりに誇りを持って、働くことの意義、学び続けることの大切さを、地域の企業とコラボしてやる中で感じて、そこから進路を選択していく方向につなげていくことが大事かなと思います。それを地元企業と共有して「何のためにするか」ということが抜け落ちないように、子供をどう育てるのかということ、地域と保護者と学校が目標を共有していることが一番大事なので、今後取組が広がっていく中で、外さないようにすることが大事かなと思います。</p>
教育長	<p>CSの取組が進んでいく中で、地域の方、保護者がどんどん</p>

	<p>学校に入れるような環境、雰囲気を作っていく、そのためにはいろいろな人が集まれる場所が要る、その場所をしっかりと活用してCSの取組や地域の活動もできる、そういう環境を今後作っていきたいと考えております。学校のことだけでなく地域づくりや介護・子育て、防災など、地域の拠点のようにいろんなことに広がっていくのではないかと考えております。それを全部学校がやるのではなく、地域の人が集まりながらやっていくということも発展的にはできていけばと思います。</p> <p>学校の学びをどう作っていくかが中心ではあるのですが、地域と地域の交流の話をしました。他所の地域と交流、情報交換をしている学校もあります。そういう上手な交流を、今後モデル的に作っていければよいと考えております。</p>
市長	<p>これからはネットや、5Gなどタブレットを使ったりして、国内だけでなく外国とも日常的につながることができるのではないかと思います。</p> <p>次は、来年度からプログラミング教育が始まる、タブレットも文部科学省が補正予算で小中学生に整備していこうという方針を打ち出しているようです。英語教育も本格導入ということですが、そのあたりについて教育委員会から説明をお願いします。</p>
教育部長	<p>プログラミング教育の現状につきましては、背景としてSociety5.0時代を生きる子供たちの学びのためには、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が不可欠であり、新学習指導要領においても、ICTの活用を前提とした「情報活用能力」を「学習の基盤となる資質・能力」として新しい学習指導要領で小学校でも中学校でも位置づけられています。「学習の基盤となる資質・能力」として位置づけられていますので、各教科においてもこういう力をつけていくことが示されています。情報活用能力を育む一つとして「プログラミング教育」をやっていこうということで、中学校では既に一部やっている部分がありますが、来年から始まる小学校の新学習指導要領においては必修化されるため、現在実施に向けて準備を行っております。</p> <p>具体的には学習指導要領上では算数、理科、総合的な学習の</p>



時間で指導内容について例示されていますが、どの教科でやってもよいことになっています。特に算数・理科では教科書の中にプログラミング教育が明記されていますので、一昨年度に各校の情報教育担当教師を対象に「プログラミング的思考」に関するスキルアップ研修を実施し、各小学校及び義務教育学校に導入しているプログラミングソフトを実際に動かし、授業を想定した校内研修を実施しています。今年度は、府中市主催のプログラミング教育研修を年2回計画し、授業の中で実際に子供たちが学習する授業研究を行い、研究協議しております。

また来年度の構想が、府中市独自のプログラミング教育を展開するということで、府中市のまちづくり基幹産業と軌を一にして情報活用能力を育成していくためのプログラミング教育として、子供たち自身がドローンを活用した、府中市の産業につながっていくようなプログラミング教育を展開したいと考えております。具体的には、プログラミングソフトは二次元のパソコンの中でプログラミングを行いますが、ドローンであれば、現実社会でプログラミングして動くという、よりリアルに感じられる、トライアル&エラーを繰り返しながらプログラミング的思考を養っていけるツールとして有効だと考えております。

実際に今年の学びフェスタで、「未来の学び体験ブース」として企業とタイアップして、ドローンを活用したプログラミング教育を展開して、子供たちや大人の方々も非常に好評だったため、ぜひ展開していきたいと考えております。

環境整備の面で言いますと、令和2年度から順に新学習指導要領の全面実施が始まりますが、学校におけるICT環境整備については、昨年前半までは3.6人に1台整備という文部科学省の方針があり、年度途中からは3クラスのうち1クラス分整備を目指すということになりました。今年になって更に加速度的に変更になっており、「学校における高速大容量のネットワーク環境の整備を推進するとともに、特に義務教育段階において、全学年の児童生徒一人一人がそれぞれ端末を持ち、十分に活用できる環境の実現を目指す」と政府方針が出されました。市長からもお話がありました通り、先週出された補正予算で

は、5年間かけて端末の一人1台の整備として、基本的には公立学校は必要な分だけ定額補助ということで、10分の10の補助がありますので、端末整備の予算化を検討しております。また、高速大容量ネットワーク整備についても約8割の財政支援を国が準備しているとのことで、そこをチャンスとして取り組んでいく必要があると考えております。

府中市の現状は、校内LANの整備がまだ十分ではなく、端末については平均すると児童生徒約6人に対して1台しか整備できていないという課題があります。今後プログラミング教育で「情報活用能力」を高めるためには、教科横断的に多様な学習機会でも端末の活用が必要で、台数の制限、Wi-Fi環境の限界によって活用できないという現在の状況を改善するためにも、学習者用パソコン台数の増加や環境整備について充実していきたいと考えておりますし、またそれを使いこなす教師の指導力アップについても研修を重ね、有効に活用できる環境を作っていきたいと考えております。

続いて外国語教育の現状でございます。

現在小学校では外国語活動という教科ではない形で5年・6年生が学習しておりました。それが来年度からは3年・4年生で外国語活動が行われ、5年・6年生では英語という教科として実施することとなっております。そのため小学校・義務教育学校前期課程においても教科管理をして、新学習指導要領を踏まえた指導方法についての研修を行っているところです。例えばモデル事業の提示、指導力向上のための講義・ワークショップを通して新しく得た研修内容を踏まえて、研修参加者が所属校において校内研修を実施し、普及を図るとともに、外国語教育に関わる授業改善を推進しております。中学校においては令和3年度から新学習指導要領の実施となりますが、指導方法の研修を行っております。校種間の円滑な接続に向けたC a n - D oリストを作成するなど、小学校3年からの7年間の系統性を考慮した外国語教育を各校の特色を生かしながら進めております。

外国語教育関連で、もう1点説明いたします。

府中市では英語検定へのチャレンジを推進しており、一定の

	<p>補助を行っております。今年度は11月末時点で143名の申請があります。過去の推移をみますと、平成29年は78名、平成30年は220名で、平成30年度よりは小学生にも参加を促しており、5級から補助対象としております。今年度で言えば、小学校及び義務教育学校前期課程の児童が23名という状況です。文部科学省が示している求められる英語力を有する英語の割合が3級程度以上と言われておりますが、これについては4学園で合計67名となっております。</p> <p>課題といたしましては、会場校でない場合、学校内のサポートが充分されていないとか、制度の周知が充分になされていないということがあります。また外国語科教師及び学級担任が英検チャレンジを児童生徒に周知する必要がありますので、積極的な情報提供を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>最後に、教育環境について説明いたします。</p> <p>今年度、府中市立全学校の普通教室に空調設備整備が完了したことで、暑い時期でも、全ての学級において快適な環境下で学習に取り組んでおります。改めまして、小野市長の公約で掲げられたこと、また市議会、保護者の皆様のご理解をいただいて、このような環境整備が整ったことは大変意義深いことだと思います。</p> <p>空調整備が完了しておりますので、夏季休業中においても、登校日の設定が一層可能となっており、例えばインフルエンザ、災害等で臨時休校となった場合でも授業時数が確保できるので、年間を通して児童生徒がゆとりを持って学ぶことができる、教材研究や授業準備、校内研修等の時間を確保できるなど、空調設備に伴い、今後は夏季休業期間の在り方も含め検討を進めてまいります。空調設備は、冷房だけでなく暖房もございますので、年間を通して気象条件に配慮した教育活動ができる環境が整いました。このことにより、府中市の児童生徒に提供する教育課程は、年間全体を見渡して、より一層充実できる機会を得たと考えております。</p>
市長	<p>外国語教育、プログラミング教育、環境整備に伴う夏休み等について説明がありましたが、何かご意見・ご質問がございませうでしょうか。</p>

高橋委員	プログラミング教育は全学年が対象ですか。
教育部長	小学校は学年の指定はありません。例示であげられたものでいうと、小学5年生で算数、小学6年生で理科というような記載はあります。学年問わず、どの教科関わらず、やっていきたいと思いますという流れです。
高橋委員	必要時間数はどれぐらいでしょうか。
教育部長	算数、理科においては3時間程度。ドローンを活用した独自カリキュラムでは、総合的な学習の時間の確保もありますので、あまり多くは取れないと思いますが、プログラミング教育でプログラミング思考を学んでいく中で、ドローンであれば学校の外でドローンを扱える環境が府中市に求められていますので、ドローンに興味を持ってもらうという面で効果があると考えております。
和知委員	英検チャレンジで、上下中学校からの受験者が少ないのは、試験会場の問題、受けたくても会場がないということなのか、単に受けたいと思う人が少ないのか、どうでしょうか。
門田課長	上下高校が公開会場となっています。年に3回受験可能です。
市長	担当の先生の声掛けでも増えたり減ったりします。府中明郷学園だけが学校で受けられて、それ以外は生涯学習センターであったり。せっかく高校も使わせてもらっていますし、補助もありますので、受けてもらえたらと思います。
和知委員	やはり学校で受けられる府中明郷学園は受験率が高いので、先生の声掛けもしていただければ。
市長	他に何かございますでしょうか。
松尾委員	エアコンがついてから、子供が学校から帰ってきてからの疲れ具合が去年と比べて違います。わたしたちが子供のときとの暑さのレベルが違うので、そういう意味でつけていただいで良かったと思います。 ただ特別教室では未整備ということで、予定というはないのでしょうか。
教育部長	環境整備は計画的に進めていきたいと考えております。 次は体育館につけてほしいという声もあります。体育館については学校だけでなく、避難所として使われることもあります

	<p>ので、市全体で空調設備のあり方については検討してまいりたいと思います。</p>
市長	<p>最後に義務教育学校の設置から今年で3年目かと思えます。教育課程の特例について説明をお願いします。</p>
教育部長	<p>平成29年に義務教育学校及び併設型小・中学校に移行したことで、教育課程の特例が認められ、設置者の判断により一貫教育の軸となる新教科等の創設や、学年段階間・学校段階間での指導内容の入替え等が可能になっております。義務教育9年間の見通した教育課程の特例が認められることは、府中市の子供たちの付きたい資質・能力を身に付けるための学びの可能性をより広げることができると考えております。</p> <p>当初、教育委員会としては次年度からの新学習指導要領を踏まえ、これからの時代を見据えた次の3つの大きな教育内容について教育課程の特例を活用したカリキュラム開発ができないか模索しています。1つ目が、教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれる言語活用を発達段階に応じて育み、学力の定着・向上を図るカリキュラム、2つ目が時代を超えて普遍的に求められる「プログラミング的思考」「情報活用能力」育成のためのカリキュラムの開発。3つ目が、CSを活用しながら地域に開かれた教育課程を踏まえ、ふるさと「府中市」を学び課題発見解決能力、郷土愛と地域貢献の志を醸成するカリキュラムの開発、この3つについて模索しています。教育課程の特例を活用したカリキュラム形態には、主に2つ考えられまして、1つは、府中市立の全学校で実施するカリキュラム、もう1つは、各学園で実施していくカリキュラムです。教育課程の特例を活用した新教科等も含めた構想は、教育委員会はもとより、各学校でも模索を始め、その必要感が市内全校で高まってきております。先ほど申し上げた3つ目の課題発見解決能力、郷土愛と地域貢献の志を醸成するカリキュラムについては、総合的な学習の時間を中心に各校で取組が進められ、すでにカリキュラム開発が進んで実践されているところです。</p> <p>2つ目のプログラミング教育については、新学習指導要領で例示されている教科で実施していく他に、特例ではないのですがドローンを活用した学習も考えております。また特例を使っ</p>

	<p>た形での実施でいえば、例えば、府中学園前期課程でプログラミング教育を中心的に扱うカリキュラムが実施できないか構想を持っている状況です。</p> <p>教育委員会としては、全市的に学力向上が必要であるとの課題意識を持っておりますので、発達段階に応じて言語能力を育んでいくカリキュラムについて、施策、組織、活動面で全国のモデルポジションにある府中市教育に新教科を創設することにより、トップランナーのポジションを盤石にしたいと思っております。具体的には、府中市立の全学校で、新学習指導要領に示された教科等を越えた、全ての学習の基盤として育まれ活用される「言語能力」の育成のために「言語技術」指導を核とした新教科の創設する新規事業を考えているところです。</p> <p>情報活用能力が新たに学習基盤になる資質能力と申し上げましたが、これまでの学習指導要領でそこに位置づけられていたのが「言語能力」で、今度の新学習指導要領でも基盤となる能力と位置づけられていますので、全教科の中で育んでいくものとされております。</p> <p>言語能力をダイレクトに育てられるような教科を作っていないかという、新教科の構想を持っております。各学校で実施を考えているものについては、現在、学園、学校ごとに校長を中心として積極的に構想が練られている状況があり、全市的に行うもの、学園ごとに行うもの、これを授業実数も勘案して、いつ始めていくのかについても進めていきたいと考えております。</p>
高橋委員	言語能力をもう少しかみ砕いて説明いただけますか。
教育部長	簡単に言うと、文章を理解したり話す能力であったり、表現していく能力ということで、基盤になる能力と位置づけられています。例えば算数でも文章問題になると、文章の意味がわからないといけない、読解力ですとか総称して言語能力と位置づけています。また自分の想いを表現することも求められている力です。
高橋委員	最初に説明のあった学力調査の結果が、その辺にも表れているのでしょうか。
市長	具体的には、どういった取組をするのですか。

<p>教育部長</p>	<p>新しい教科を作るというのは大変大きな話で、教科書を一から作らないといけないというのもあります。現在の構想では、来年度の予算要求段階ですが、カリキュラム開発プロジェクト研究協議会の立ち上げを考えております。その中で専門機関と連携して指導者養成、カリキュラム作成、テキスト作成をしていきたいと考えております。複数年かけて指導者を育成し、実践していく構想を持っております。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>府中市の特徴や強みを、総合学習の中で学習しておられるとは思いますが、高校卒業して市外県外に出ても、府中市はこんなよい町だと紹介できるような学習を取り入れていただいて、できれば地元に戻ってきてもらえるそんな方向性を見据えた教育をやっていただくと良いのかなと思います。地域で作ったカルタや、府中味噌をつかった料理など、印象に残ることを学習に取り入れていただきたいと思います。</p> <p>一足飛びでやるのは先生方も大変だと思うので、市内の企業で精通した方をゲスト講師とかで迎えて、一緒に授業するという形もとれないかなと思います。企業がどんな仕事をしているかもわかりますし、子供たちのユニークな発想を必要としている企業もあると思うので、取り入れられればと考えます。</p>
<p>藤井委員</p>	<p>言語技術指導のイメージがいまひとつわからないのですが。</p>
<p>門田課長</p>	<p>平成15年から広島県教育委員会が県内一斉に言語技術指導を取り入れました。自分の解釈を説明できる言語能力を身につけなければ、府中市のここがよいと言える言語能力がなければ、府中学だけではだめだと考えております。</p> <p>県教委が取り入れた言語技術指導は、教育課程外であったため定着させにくいという課題もありました。府中市は新教科が作ることができるので、教育課程の中に位置づけることができます。今こそ、この言語技術指導が必要な時期だと考えております。</p> <p>9年間のスパンのカリキュラムで子供たちに着実につけていく、言語能力と情報活用能力と課題発見解決能力を込みにした新教科にしたいと考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>会議終了時刻が迫ってまいりました。</p> <p>府中市の教育・子育ては、かけがえのない府中市の強みであ</p>

ると考えております。府中版ネウボラの開設、妊娠期から出産子育て、そして幼保小連携、中学生高校生へのつながりをもつなかで、0歳から二十歳まで府中市として責任を持って子育てを進める取組を考えております。

今年も残すところ10日となりましたが、よいお年をお迎えいただくとともに、来年も引き続きのご指導ご助言をお願いいたしまして、この会議を終了いたします。ありがとうございました。